



令和6年度

練馬区立光が丘四季の香小学校経営計画

校長 繁田 幸江

1 目指す学校

(1) 目指す学校像

【学校経営理念】「すべては子供のために」

- ・一人一人の子供を大切にする
→確かな子供理解、個に応じた指導、授業力の向上、共感的・支持的な学校風土
- ・子供の命・人権・安心・安全を守る →人権感覚を磨く、危機管理能力の向上
- ・よりよい学校をつくる
→学校評価による改善（常に「子供のためになるか」を評価基準とする）

- 子供にとって 「毎日笑顔で過ごせる学校」
- 教職員にとって 「協働して子供の力を伸ばせる学校」
- 保護者にとって 「安心して子供を任せられる学校」
- 地域にとって 「親しみを感じ誇りに思える学校」

(2) 目指す子供の姿（教育目標） ◎は重点目標

◎ 自ら考える子

- 「主体的・対話的で深い学び」の実践、思考力育成の充実、探究学習の重視
- 「確かな学力」の定着と向上、問題解決型学習、言語活動の重視
- 「タブレットや電子黒板など」ICTを活用した学習の汎用化

○ 思いやりのある子

- 「人との関わりを大切にする子」の育成に向けた縦割り班活動の充実
- 「豊かな心を育む」道徳教育の充実

○ たくましい子

- 「自分の健康と体力向上を考え実践できる子」の育成に向けた体育科授業の充実
- 「健康保持・体力向上」を図るための健康教育・食育の充実

(3) 本校の特色を生かした学校経営

- 地域学習の充実、地域行事への参加の奨励
- 小中一貫教育の推進、幼・保・小連携教育の充実
- こぶしルームと連携した特別支援教育の充実
- 光が丘図書館や図書ボランティアと連携した読書活動の充実

2 今年度の取り組み目標と方策

◎自ら考え学び合う力を育てる学校

①子供主体の楽しく分かりやすい授業を実践する。

- ・国語科「話すこと・聞くこと」を通して、「主体的・対話的で深い学び」を育てる。(校内研究)
- ・算数少人数指導を中心に、問題解決型の授業や個に応じた指導を行い、子供の思考力・表現力・判断力を育て、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・昨年度の研究を生かし、生活科・総合的な学習を通して、主体的に学んだり探究的に学んだりする力を育てる。

②朝学習や家庭学習を通して基礎学力の向上を図る。

- ・読む力や書く力を身に付ける指導、音読・漢字・算数ドリル学習を計画的に行う。
- ・学習規律について全校で共通に取り組む。(始めと終わりの挨拶、発言の仕方など)
- ・家庭学習について学年で共通に取り組む。(子供が主体的に取り組める課題や、タブレットを活用した学習なども取り入れる。)

③タブレット端末や電子黒板を活用した学習を汎用化する。

- ・毎日一回は、授業や家庭学習でタブレット端末を活用する。(1年生は、7月以降)
- ・全校でICTを活用した授業研究を推進する。どの教員もICTを活用した授業を積極的に行う。

④図書室の充実と読書活動の推進により子供の読書量を増やし、読書に親しむ児童を育てる。

- ・司書教諭を中心に読書月間の取組を工夫する。
- ・読み聞かせや親子読書などを通して読書に親しむ子供を育成する。
- ・毎週金曜日の朝は、全校で一斉に読書をし、読書習慣を育てる。
- ・図書委員会、学校図書館管理員や図書ボランティアによる読書活動を推進する。
- ・光が丘図書館の団体貸し出し等を活用し、子供が日常的に読書を楽しむ環境を整える。

◎思いやりのある豊かな心を育てる学校

①人との関わりを大切にする活動や豊かな心を育てる活動を推進する。

- ・道徳の授業や人権教育・縦割り班活動の充実を図り、思いやりの心を育てる。
- ・展覧会、校内芸術鑑賞教室、校内書初め展、箏体験等を通して、豊かな心を育てる。
- ・池や畑、植栽などの自然環境を生かした教育活動を通して豊かな心を育てる。

②子供をよく理解し、いじめや不登校・人権等の問題について、適切に対応する。

- ・子供の人権を守るため、教職員による体罰や不適切な言動などは決して行わない。
- ・四季の香タブレットルールやSNSルールについては、家庭や地域と連携して繰り返し指導する。

- ・月1回程度、特別支援教育のミニ研修を行い、子供の特性に応じた指導や支援の充実を図る。
- ・年間3回のアンケートや全員面接(3、5年生)を通して、いじめや不登校の未然防止と早期発見・早期解決に努める。また、相談室や保健室は、日頃から子供が相談しやすい雰囲気を作る。
- ・いじめや不登校には、SCや心のふれあい相談員、SSWと連携して組織的に対応する。
- ・代表委員会を中心に標語等に取り組み、子供たちが自らいじめをなくそうという意識を高める。

③子供が学校や地域で進んで挨拶ができるようにする。

- ・代表委員会を中心に「あいさつ運動」を行ったり、光が丘第一中学校の生徒会と連携して「あいさつ運動」を行ったりし、子供たちが自ら挨拶をしようとする意識を高める。
- ・教職員が率先して挨拶をし、「だれにでも、いつでも、自分から」挨拶ができる子供を育てる。

◎体力を向上させる安全・安心な学校

①子供が健康に過ごせるように、保健指導と体力向上に努める。

- ・体育科の授業の充実を図るほかに、外遊びの奨励を通して運動の日常化に取り組む。
- ・縄跳び月間や持久走月間などを通して、全校体制で体力向上を推進する。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」等生活リズムの向上を図り、栄養士を中心に食育の充実を努める。
- ・保健指導を計画的に行い、子供が自ら健康に気を付けて生活しようとする態度を育てる。

②子供が安全に過ごせるように、安全点検や安全指導を徹底する。

- ・年間を通して、発達段階に応じた生命尊重教育や安全教育を計画的に行う。
- ・校舎内外の「安全点検」を徹底するほか、火事や事故・不審者への対応、地震や台風等大規模な災害に備えた避難訓練を計画的に行う。また、地域や保護者と連携した危機管理体制を整える。

◎地域の一員であるという自覚を育てる学校

①地域学習に取り組み、子供が地域行事に積極的に参加できるようにする。

- ・地域学習や地域の方との学習を計画的に行い、地域の一員としての自覚を高める。
- ・光が丘地区祭など地域行事への子供の参加を奨励する。
- ・中学校と連携した教育を通して、9年間を見通した教育を実践する。また、地域の保育園・幼稚園との交流を計画的に行う。

②保護者や地域の方に学校の教育方針や学校の様子を積極的に伝える。

- ・学校公開や保護者会、個人面談、学校評議員会を通して、学校の教育方針や学校の様子を伝える。
- ・連絡帳や電話・伝達システム「シグフィー」、タブレットのクラスルーム等を通して、必要な情報を保護者に知らせ、共通理解を図る。
- ・ホームページ、学校だより、学年だより等を通して、地域や保護者に、学校の様子や必要な情報を積極的に発信する。